

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした整備事業)

(宮城県、平成21年度)

市町村名	事業実施主体名	政策目的	取組の分類	作物等区分(対象作物・畜種等名)	政策目標	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
							計画時(平成18年)	1年後(平成19年)	2年後(平成20年)	3年後(平成21年)	目標値(平成21年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費					その他
宮城県 農業公社	宮城県農業公社	牛関税産地	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【耕種作物活用型飼料増産】	生産性の向上	【耕種作物活用型飼料増産】飼料の増産 102.73ha→120ha 目標: 17.27ha(16.8%)増加	102.73ha	214.4ha	336.51ha	288.28ha	120ha	1074.4%	受託面積が181%増加した。	ロールペイラー(ホールクローブ収穫機)、梱包格納用機械(自走ラップマシン)	11,812,500	5,021,000	0	0	6,791,500	平成19年7月31日	専用収穫機導入により排水不良や未整備水田といった広範囲での適期収穫が可能となり、高品質生産の実現とともに、目標値を大きく上回る成果を達成することができた。	農業公社によるコントラクターとしての役割が増すことにより、耕種農家の作業の合理化及び自給飼料増産が期待される。	
東松島市	いしのまき農業協同組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	品質向上	【土地利用型作物】米の品質分析実施面積の割合50%以上 実施面積割合96%(432ha)→ 100%(450ha) 18ha(4%)の増加	96%(432ha)	96.50%	100%	100%	100%(450ha)	100.0%	平成21年の品質分析実施面積の割合は、目標どおり100%となり、4%増加となった。	穀類乾燥調製貯蔵施設3,000t、450ha規模	709,968,000	329,155,000	0	50,678,000	330,135,000	平成20年3月31日	穀類乾燥調製貯蔵施設における米の品質分析実施面積割合は、目標どおり100%に達した。	米の品質分析実施面積割合が100%に達し、目標を達成している。1等米比率も向上するなど、地域における米の品質向上に貢献していると考えられる。	
仙台市	コンバイン組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油13.4→11.1リットル 17%(2.3リットル)減少	灯油13.4リットル	—	灯油11.2リットル	灯油11.1リットル	灯油11.1リットル	100.0%	燃油使用量が17%低減された	遠赤外線乾燥機 3.5t×2基	2,500,000	1,190,000	0	238,000	1,072,000	平成20年3月11日	遠赤外線乾燥機の導入と省エネ利用マニュアルに基づく点検整備作業により燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を17%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
加美町	小野田雑穀部会	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 軽油2.9→2.15リットル 26%(0.75リットル)減少	軽油2.9リットル	—	軽油1.77リットル	軽油1.87リットル	軽油2.15リットル	137.3%	省エネ機構付き農業機械導入により燃油使用量を36%削減した	普通コンバイン 2.6m×1台(水稲・麦・豆)	10,980,000	3,485,000	0	0	7,495,000	平成20年3月31日	作業面積増大に対応した適切な利用日程調整と省エネマニュアルに基づく点検整備実施により、燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を36%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
加美町	葉菜農機利用組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油30.6→22.3リットル 27%(8.3リットル)減少	灯油30.6リットル	—	灯油21.8リットル	灯油18.4リットル	灯油22.3リットル	147.0%	省エネ機構付き農業機械導入により燃油使用量を40%削減した	遠赤外線乾燥機 8t×1基	2,300,000	1,095,000	0	0	1,205,000	平成20年3月31日	作業面積増大に対応した適切な利用日程調整と省エネマニュアルに基づく点検整備実施により、燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を40%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
加美町	月崎南穀類乾燥調製施設利用組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油20→14.6リットル 27%(5.4リットル)減少	灯油20リットル	—	灯油14.3リットル	灯油11.5リットル	灯油14.6リットル	157.4%	省エネ機構付き農業機械導入により燃油使用量を43%削減した	遠赤外線乾燥機 3.5t×2基	3,400,000	1,575,000	0	0	1,825,000	平成20年3月31日	利用日程調整と省エネマニュアルに基づく点検整備実施により、燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を43%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
大崎市	岩瀬生産組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 ガソリン2.05→軽油1.03リットル 50%(1.02リットル)減少	ガソリン2.05リットル	—	軽油0.94リットル	軽油0.93リットル	軽油1.03リットル	109.8%	燃油使用量を55%低減した	ディーゼル田植機 8条×1台	3,444,000	1,093,000	0	0	2,351,000	平成20年3月31日	ディーゼル式田植機の導入と省エネ利用マニュアルに基づく点検整備の実施により燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を55%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
大崎市	農事組合法人グリーンサービス大地	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油16.9→13.4リットル 21%(3.5リットル)減少	灯油16.9リットル	—	灯油13.27リットル	灯油13.36リットル	灯油13.4リットル	101.1%	燃油使用量を21%低減した	遠赤外線乾燥機 6t×3基	7,245,000	3,450,000	0	0	3,795,000	平成20年3月31日	遠赤外線乾燥機の導入と省エネ利用マニュアルに基づく点検整備の実施により燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を21%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが着実に実践されている。	
涌谷町	農事組合法人吉住米麦	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稲)(小麦)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油22.1→15.7リットル 29%(6.4リットル)減少	灯油22.1リットル	—	灯油23.7リットル	灯油18.4リットル	灯油15.7リットル	57.8%	燃油使用量を17%削減した	遠赤外線乾燥機 3.5t×4基	5,460,000	2,600,000	0	0	2,860,000	平成20年2月29日	遠赤外線乾燥機の導入により小麦では燃油使用量を削減でき、経営安定化が図られたが、水稲では燃油使用量の削減程度が小さかったため、目標を達成できなかった。水稲での作業実施時の条件や導入機会の設定・管理等の精査や原因の追及を行い、今後も燃油使用量低減に努める。	燃油の使用量を17%低減しているが、目標達成率は低いため、一層の省エネ取組み改善が必要である(水稲での適期刈取、張込量の適正化、チェックシート利用点検強化等)。	

市町村名	事業実施主体名	政策目的	取組の分類	作物等区分(対象作物・畜種等名)	政策目標	成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況					成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考	
							計画時(平成18年)	1年後(平成19年)	2年後(平成20年)	3年後(平成21年)	目標値(平成21年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費					その他
美里町	NKK生産組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稻)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油6.5→3.6リットル 45%(2.9リットル)減少	灯油6.5リットル	—	灯油4.3リットル	灯油4.2リットル	灯油3.6リットル	79.3%	燃油の使用量を35%削減した。	遠赤外線乾燥機 4.3t×1基	1,690,000	804,000	0	160,000	726,000	平成20年3月25日	遠赤外線乾燥機の導入により燃油使用量削減を図ったが、機械操作不十分などがあり、目標とする燃油使用量を若干上回った。今後も機械の有効利用を図り、燃料費の削減に努める。	燃油の使用量を35%低減しているが、目標達成率は若干低いため、省エネ取組みの一部改善(利用量の増加等)が必要である。	
栗原市	成田梶生産組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稻)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油14→12.4リットル 11%(1.6リットル)減少	灯油14リットル	—	灯油12.7リットル	灯油10.0リットル	灯油12.4リットル	250.0%	灯油1t当たりの使用量が29%削減された	遠赤外線乾燥機 3.5t×2基	2,898,000	1,380,000	0	0	1,518,000	平成20年3月25日	遠赤外線乾燥機の導入、省エネ利用マニュアルに基づく点検整備の実施やチェックシートの記入確認により燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を29%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが概ね実践されている。	
栗原市	赤児生産組合	産地競争力の強化	産地競争力の強化に向けた総合的推進	【土地利用型作物】(水稻)	生産性の向上	燃油使用量を10%以上低減 灯油22.5→19.1リットル 15%(3.4リットル)減少	灯油22.5リットル	—	灯油20.5リットル	灯油16.3リットル	灯油19.1リットル	182.4%	灯油1t当たりの使用量が28%削減された	遠赤外線乾燥機 5t×3基、4.5t×1基、4t×1基	12,052,950	5,287,000	0	0	6,765,950	平成20年3月25日	遠赤外線乾燥機の導入、省エネ利用マニュアルに基づく点検整備の実施やチェックシートの記入確認により燃油使用量削減目標を達成した。	燃油の使用量を28%低減し、目標を達成しており、省エネ低コスト生産の一助となる取組みが概ね実践されている。	

都道府県平均達成率	208.0%	総合所見	<p>「原油価格高騰対応省エネルギー型農業機械等緊急整備対策」については省エネルギー型の農業機械の導入と「農業機械の省エネ利用マニュアル」に基づいた利用により8地区で目標どおり燃油使用量が低減されたが、2地区では達成に至らなかった。今後も引き続き燃油の使用量の削減に取り組むことで、水稻の生産コストの低減に繋げる。なお、未達地区については原因を究明するとともに、引き続き「省エネチェックシート」に基づいた機械・施設の点検、適期刈り取りや張り込み量の適正化などに努めることで、目標どおりの燃油の削減を図っていきたい。</p> <p>土地利用型作物における「品質向上」の取組においては、目標どおり米の品質分析実施面積が100%に達し、米の品質向上に貢献している。</p> <p>飼料作物における「生産性の向上」の取組においては、受託面積が目標を大幅に上回ったことで、農業者の生産コストの低減や飼料増産に大きく貢献している。</p>																		
-----------	--------	------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--